

平成 29 年 4 月 27 日
学 校 長

学校教育目標

郷土の伝統と文化を受け継ぎ、自らの未来を切り拓く力を身につけ、
国際社会への貢献に向かう子どもの育成

目指す子ども像

- 自分のことは自分でしようとする子
- 自ら学び、主体的に判断し、行動しようとする子
- 見通しをもち、創意工夫しようとする子
- 主体的に社会と関わりながら豊かな人間性を育み、人を大切にしようとする子
- 多様な遊びや運動に親しみ、体力の向上に挑み続ける子
- 自分の体を正しく理解し、健康を意識した生活を送ろうとする子

● これからの時代を生きる子どもたちに必要な力とは

「解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解いたり、定められた手順を効率的にこなしたりすることにとどまらず、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに磨かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくために必要な力を身に付け、子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要である。」【中央教育審議会答申より】

● 自分のことは自分でしようとする子へ

先ず、「子どもは一人前ではないから子ども。」「子どもは未完成だからこそ“その子自身”が確立するよう、それまでは周りの大人が関わり、育てなければならない存在である。」ということです。

そしてこれからの時代を生きる子どもたちに育てるべきは「主体性」と「協働できる力」です。そのためのキーワードが「自分のことは自分でしようとする子」だと考えます。

自分でできることはやらせましょう。子どもができると思うことはやらせてみましょう。

- 本当はできることなのに親（教師も）が先回りしてやらないでください。
(自分でしようと思わなくなる。してもらって当たり前、いつまでもできないまま…)
- できそうにないことは手伝ってあげてください。できそうにないことまで「自分のことだから自分でしない」とは言ってやらないでください。
(これも自分でしようとしなくなる。できることなのにできないと叱られる、これはきつい。逆に、できないことを助けてもらった経験は、困っている友だちを手助けしようとする態度に繋がります。)

学校からの2つのお願い

- * 忘れ物のないようご協力をお願いします。（“痛い目に遭えば本人が気づく”は過去の話です。
学校は忘れ物をしたからといって痛い目に遭わすことはしません。本人ができないのであればお家で見てあげてください。）
- * 提出物の期限を守ってください。（期限を過ぎてもなんとかなるというのは学校だから、子どもが“期限を守らなくても何とかなる”と思ってしまうと、社会では大きな失敗に繋がりかねません。）

● 学習・勉強について

★ これからの教育の流れ (新しい学習指導要領が平成 32 年度から実施されます。その準備が今年度から始まります。)

- * 「英語が教科として小学 5 年生から始まります。これまで中 1 で始まっていた英語が小 5 から始まります。(これまで外国語活動として行っていた英語が教科としてスタートします。時間も年間 35 時間から 70 時間へと倍増します。)
- * 「3 年生・4 年生で外国語（英語）活動が始まります。これまで 5・6 年で行っていた外国語活動が 3・4 年においてきます。（時数は 35 時間です。）



新しい指導要領ではこれまでの学習内容や授業時数が減ることはありません。そのため、3 年生から 6 年生ではこれまでよりも年間 35 時間授業時間が増えることになります。
今後、木曜が 6 時間になる可能性もあります。（現段階ではまだ何も決まっていませんが）なお、今年度学校では、中学年で外国語活動を 12 時間実施します。また、高学年では外国語活動 35 時間の範囲で教科としての英語を意識した内容を加えて実施します。

- * 「道徳が“特別の教科”となり、“考え、議論する道徳”へと変わります。」

道徳が教科に格上げされ、これまで以上に力を入れていくこととされました。ただ、その性格上他の教科と同じに扱うことができないことから“特別の教科”とされました。



学校では、お話を読み深める道徳から、考え、議論する道徳への転換を進めます。

- * 「プログラミング教育が導入されます。」

子どもたちが、コンピュータに意図した処理を行うよう指示することができるということを体験しながら、身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと、各教科等で育まれる思考力を基盤としながら基礎的な「プログラミング的思考」を身に付けること、コンピュータの働きを自分の生活に生かそうとする態度を身に付けることが目指されます。



学校では、今年度よりプログラミング教育の取り組みをスタートします。

家でも勉強する習慣をつけましょう。

「勉強は学校だけで充分」と思っていると、中学に行って苦労します。「宿題 + α」を学年に応じて。学校での学びを定着させるのが、家庭学習。自ら学ぶ習慣は家庭学習から。

● 「八瀬」に育つことを誇りに思って欲しい。そして社会と関わり、世界と繋ろうとする子へ

八瀬の伝統・文化、そして地域社会の良さを学び、感じることで、八瀬に育ち・学んでいることを誇りに思って欲しいと思っています。そしてその思いを基にして、自分がより大きな社会（京都から世界へ）と関わっていることを感じられるような子に育って欲しいと願っています。



学校では、八瀬地域に関わる学習を充実させます。また、子どもたちには、自分たちが社会と関わっているという実感が持てるよう、地域や社会と直接関わる行事等への参加を積極的に勧めます。